

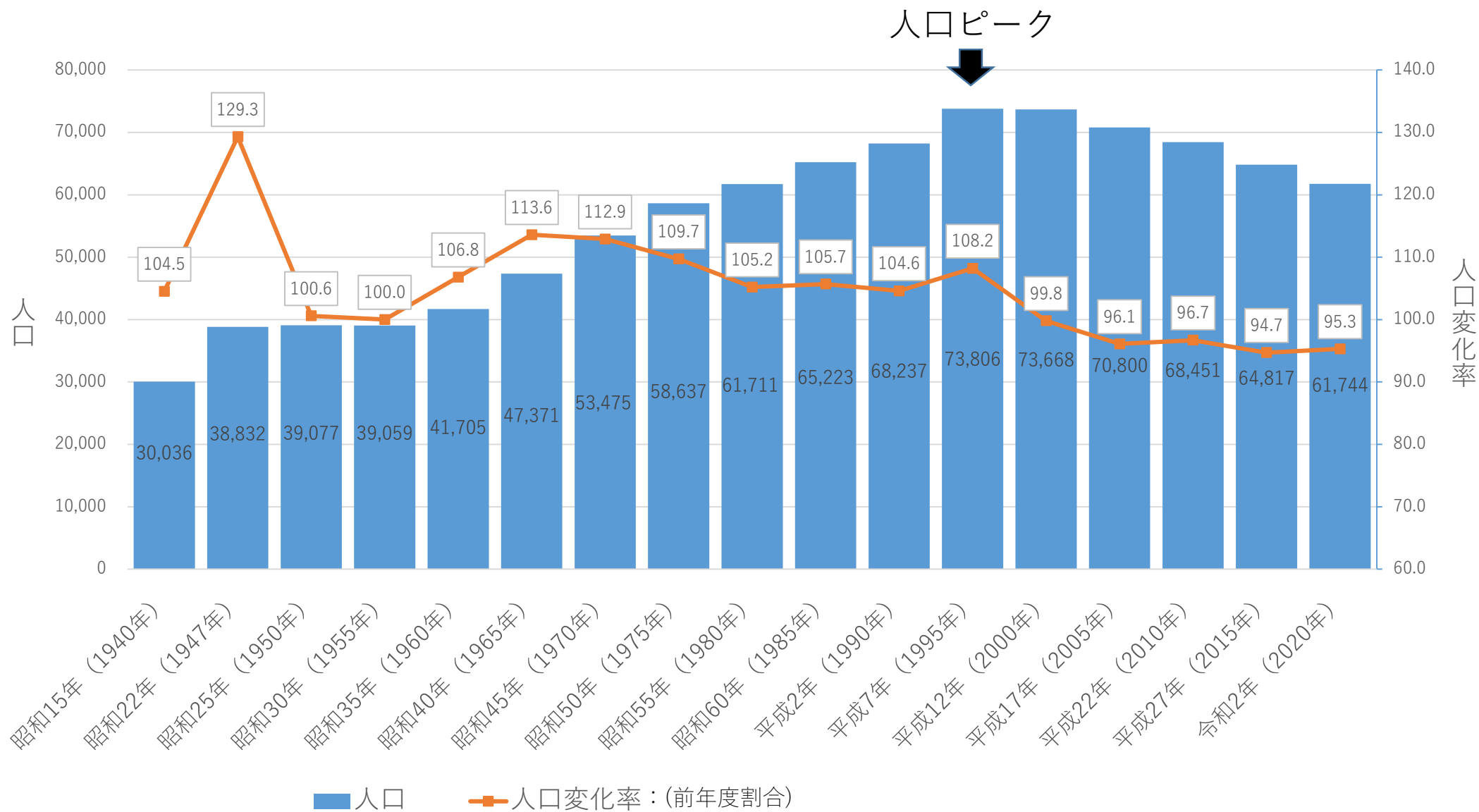
大和高田市 データ表

令和 4 年 8 月

令和 4 年度 第 1 回 大和高田市まち・ひと・しごと創生会議
令和 4 年 8 月 2 9 日（月）14：00～

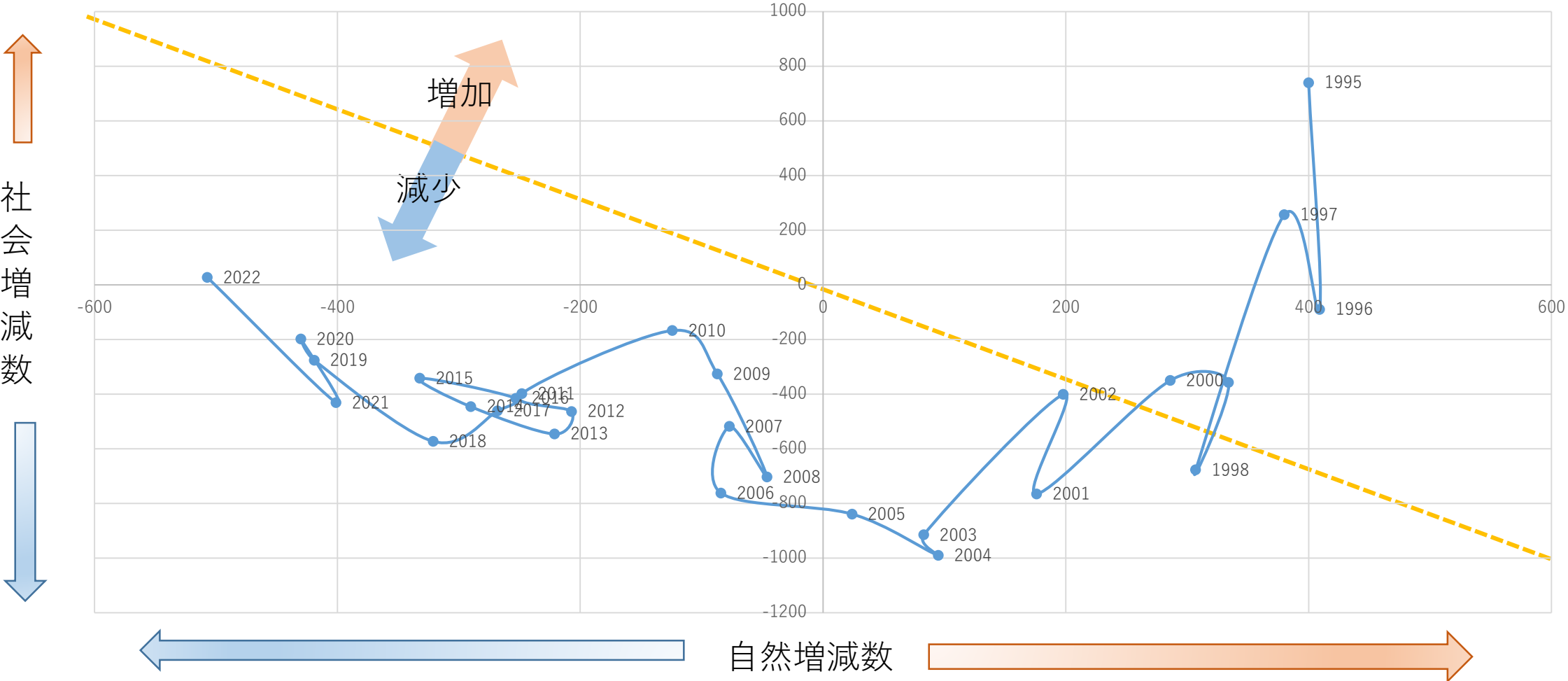
人口と人口変化率の推移

【出典】 国勢調査



※ 各年1月1日時点

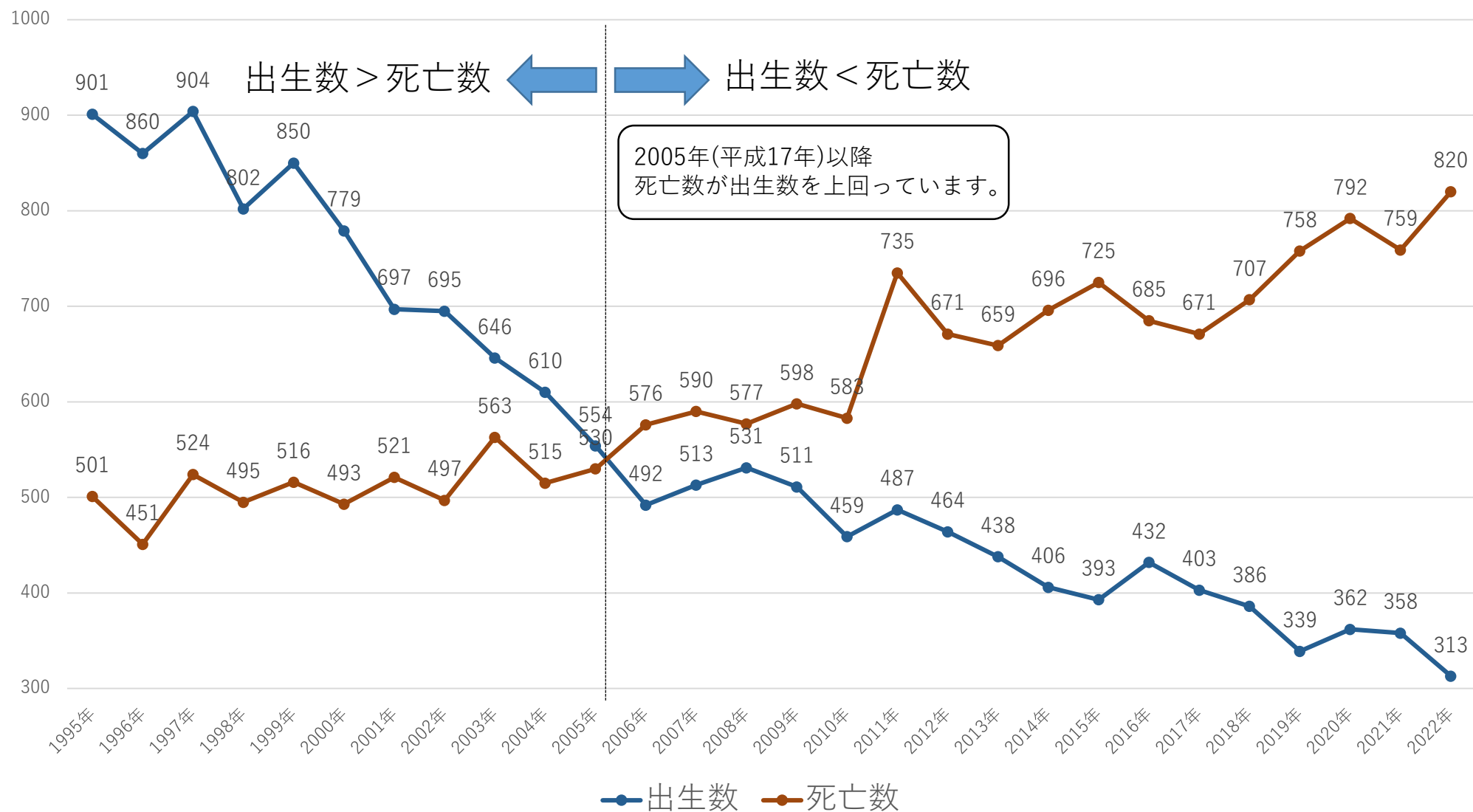
自然増減と社会増減の推移（散布図）



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

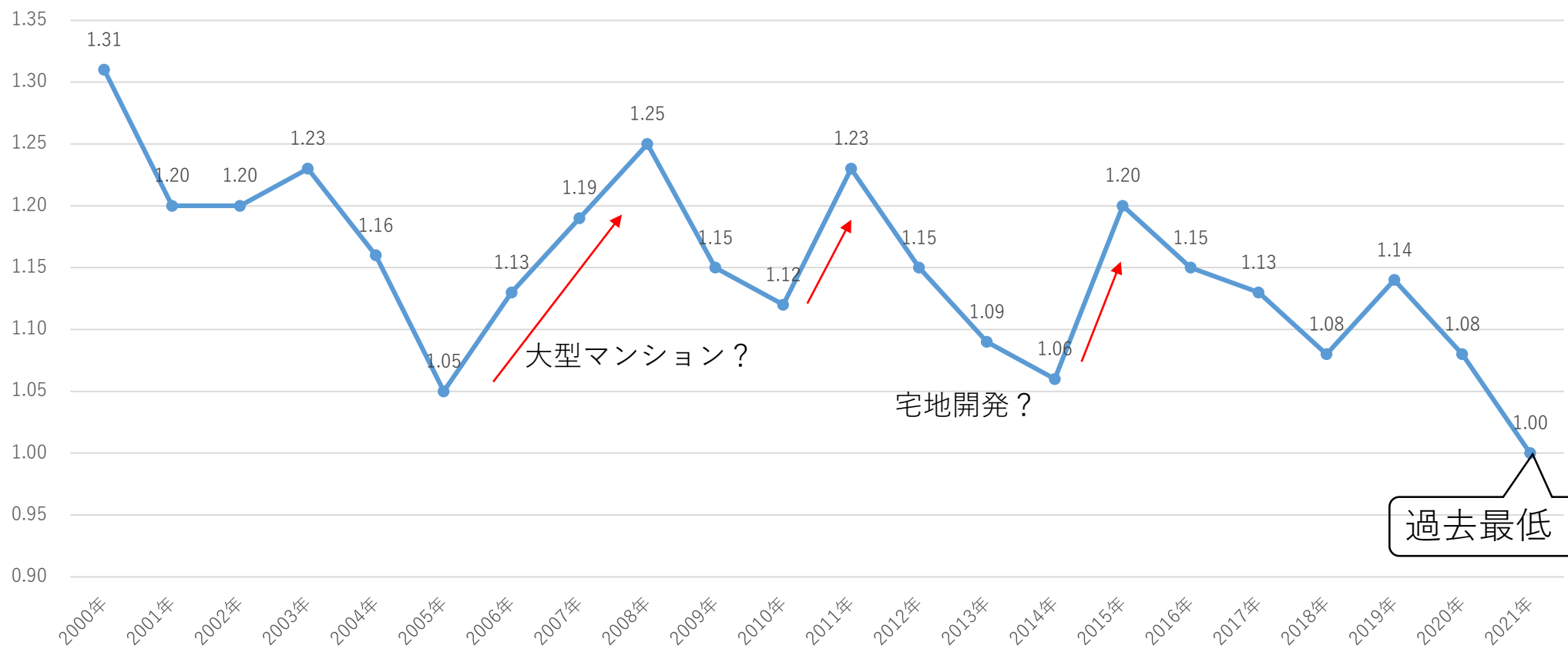
出生数・死亡数

※ 各年1月1日時点



合計特殊出生率

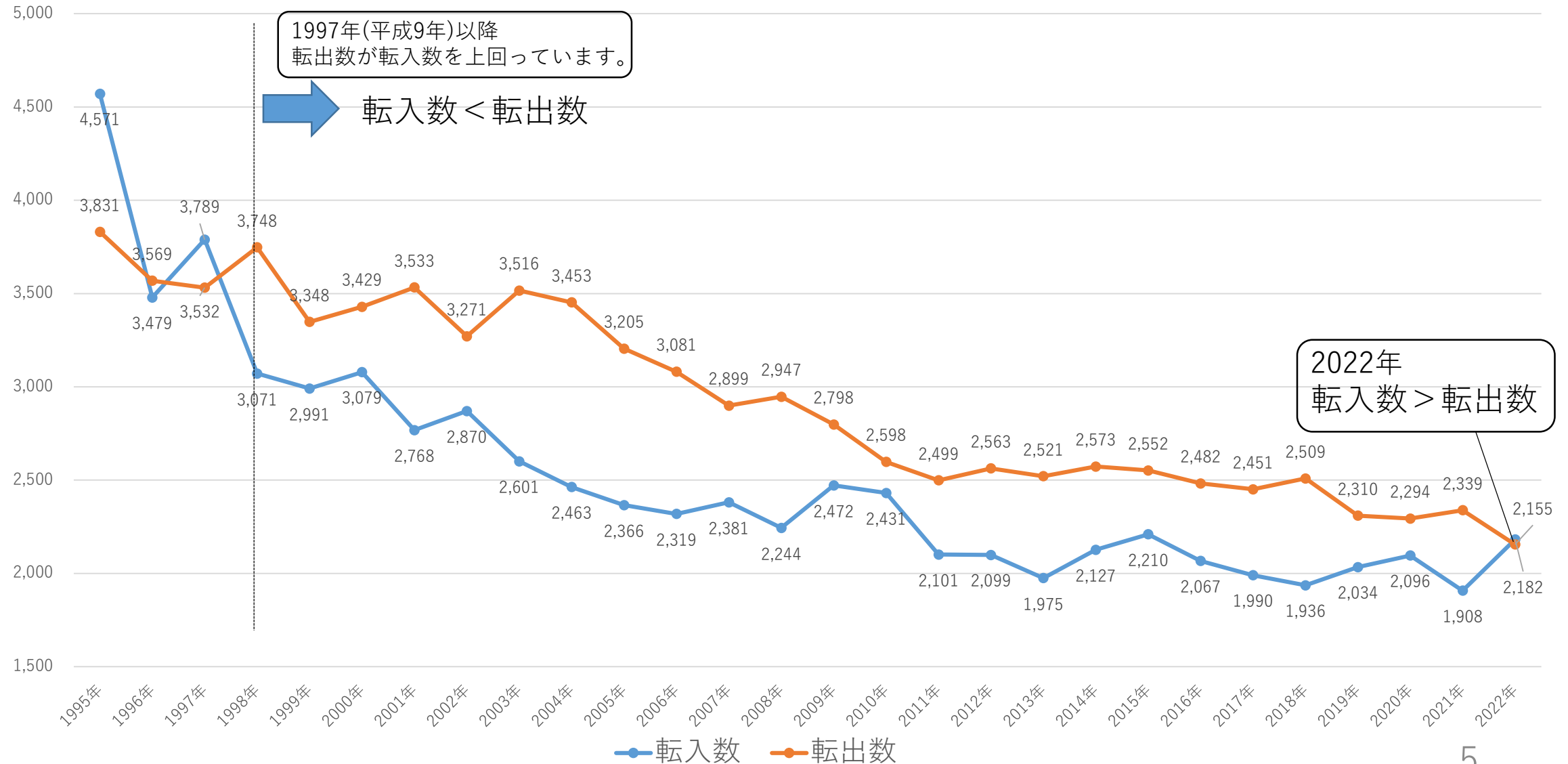
人口動態調査による母親の5歳階級別出生数を住民基本台帳（10月1日付）による15～49歳の5歳階級別の女性人口比で除した値の合計



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

転入数・転出数

※ 各年1月1日時点



From-to分析（定住人口）

【出典】 地域経済分析システム（REASAS）2020年

転入者 内訳 〈上位5位〉

	転入元	転入者数	全体の割合
1	橿原市	258人	14.61%
2	大阪市	160人	9.06%
3	葛城市	105人	5.95%
4	御所市	68人	3.85%
5	桜井市	58人	3.28%

転出者 内訳 〈上位5位〉

	転出先	転出者数	全体の割合
1	橿原市	234人	10.75%
2	大阪市	203人	9.32%
3	葛城市	200人	9.19%
4	香芝市	157人	7.21%
5	広陵町	106人	4.87%

転入超過数 内訳 〈上位5位〉

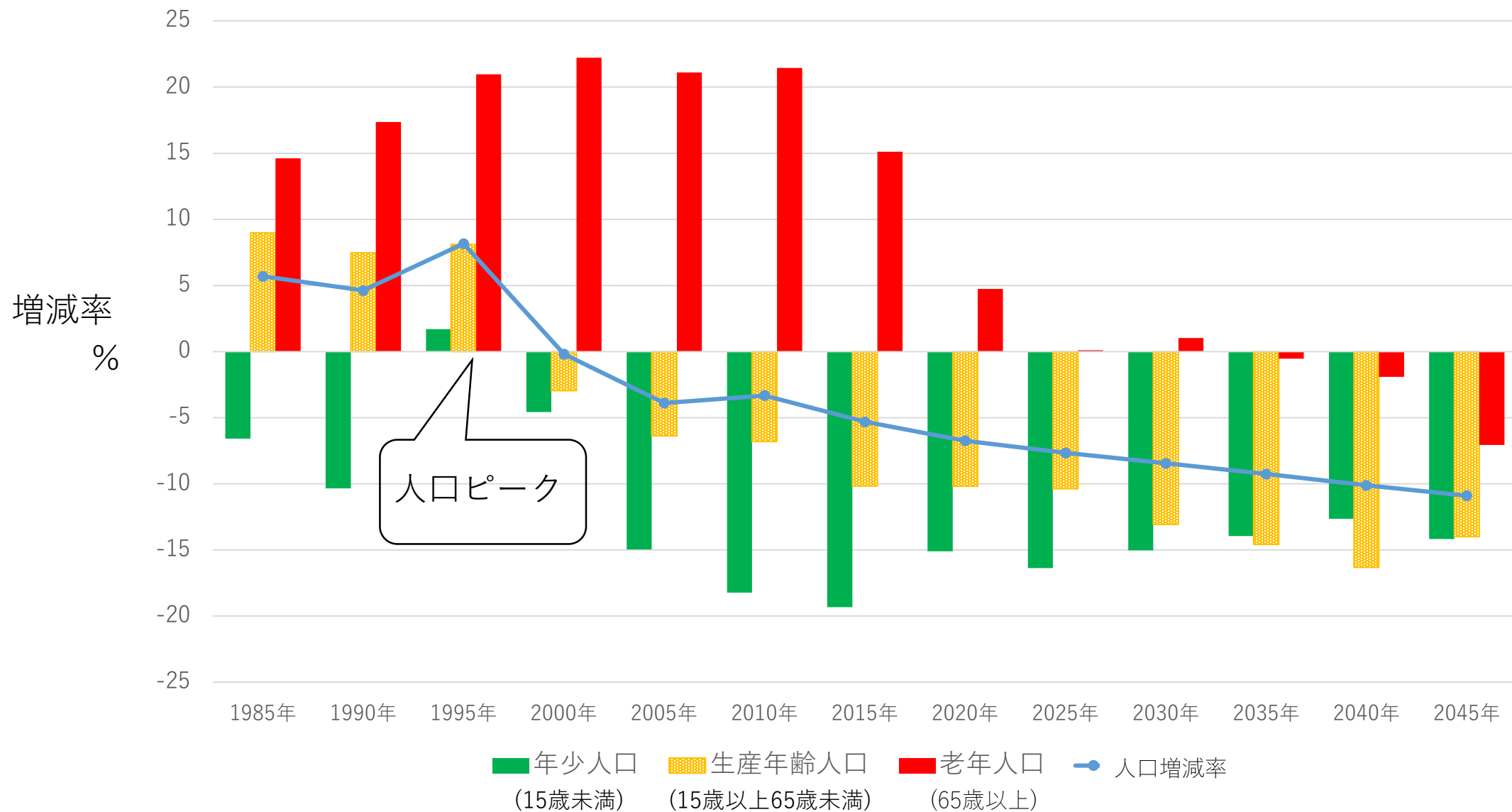
	転入元	転入者数-転出者数	全体の割合
1	橿原市	24人	32.00%
2	五條市	21人	28.00%
3	桜井市	10人	13.33%
4	堺市	10人	13.33%
5	東大阪市	6人	8.00%

転出超過数 内訳 〈上位5位〉

	転出先	転入者数-転出者数	全体の割合
1	葛城市	95人	19.55%
2	香芝市	54人	11.11%
3	奈良市	52人	10.07%
4	広陵町	51人	10.49%
5	大阪市	43人	8.85%

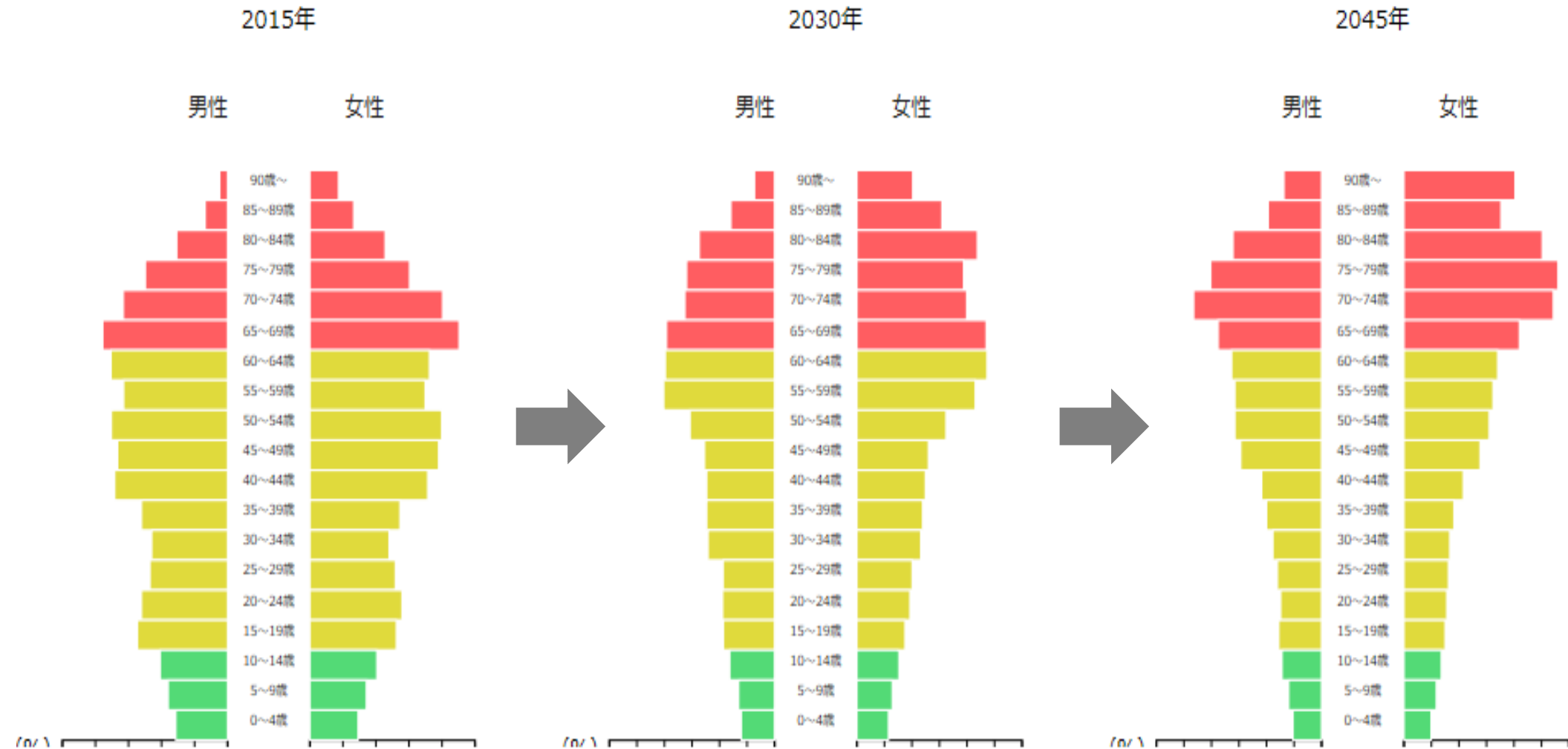
人口増減率【年齢段階別】

【出典】 地域経済分析システム (REASAS)



人口ピラミッド

【出典】 地域経済分析システム (REASAS)



○まとめ

- ・ 自然増減率が1995（平成7）年以降、過去最高となっている。
→人口減少・少子高齢化の影響が強く表れている。
- ・ 合計特殊出生率は2021（令和3）年には1.00となっていて、過去最低値となっている。
→コロナ禍でのいわゆる「産み控え」の影響を受けている可能性もあるが、子育て世代の転出超過も大きな要因と考えられる。
- ・ 社会増減については、25年ぶりに転入超過となった。
→大型マンションの建設の影響も大きいと推測される。